

指交叉症の検討

ま 庭 昌 人¹⁾ ふな き みき お 雄¹⁾
 お 生 越 英 二²⁾

キーワード：手・指の骨折，指交叉，スポーツ外傷

要 旨

繊細な動作をしなければならない指が指交叉（指が重なること）を発症すると日常生活で大変不自由を来たします。特に手指を握り動作をする時に隣接の指と重なり不安定でしっかりと物を握ることが出来なくなる。そこで、指交叉を生じない様に指の骨折では回旋変位を見落とさないことが重要です。

今回は外傷で受傷した指交叉85例について検討した結果：男性67例 女性18例で男性が3.7倍と多く受傷されていた。また成人，小児の両方とも圧倒的に男性が多かった。年齢分布で小児は12歳代7例，成人は20歳代12例が最も多かった。

小児ではスポーツが原因の24例が多くその中でもバスケットボール8例が最も多かった。しかし成人のスポーツによる受傷は4例でごく少数であった。また，右手53例，左指32例で右手がやや多く，受傷指は小指基節骨の26例が最も多かった。

治療は徒手整復し外固定例，経皮一鋼線固定（1～2本使用）症例または観血的治療した全例後遺症なく治癒した。手指の治療は受傷から3週間が最も大切で，また細心の注意をして早期リハビリを開始しなければ拘縮を残すことになる。

さらに，躊躇した時には手術の決断も大切です。

1. 目 的

指交叉症はまれにみられる疾患であり，見落とすと治療に難渋することになる。

また治療により変形治癒すると手の機能障害を

きたすので，その診断，治療にはより慎重を要する。そこで本症例を検討したので報告する。

2. 対象と方法

1978年より2008年までの31年間に当院等で加療した指交叉症は85例である（表1）。

その年齢分布は9歳～70歳代までであった（表2）。

Masato MANIWA et al.

1) 出雲整形外科クリニック 2) 生越整形外科クリニック
 連絡先：〒693-0004 島根県出雲市渡橋町1140-1
 出雲整形外科クリニック